名古屋徳洲会総合病院　広報誌

かすたねっと

2015
7月

編集発行（毎月１日発行）

名古屋徳洲会総合病院
郵便番号：487-0016
住　　所：愛知県春日井市高蔵寺町北2-52
電話番号：0568-51-8711（代）

目　　次

診療科報告（循環器内科）　２～３頁
コラム・トピックス１　４頁
コメディカル便り（検査科）　５頁
看護部便り（のぞみ）　６項
医師紹介　７頁
外来予定表　８頁

日本医療機能評価機構
認定第 JC1021 号

心臓アミロイドーシスセミナー開催

平成27年
6月10日（水）

▲昭和伊南総合病院のスタッフと

▲セミナー中は様々な質問が飛び交い、活発な意見交換が行われた

心臓に関わる医師は、どうしたら患者さんが元気に長生きできるかを考え、患者さんと協力し病と闘っていくことを考えます。心臓の病気には心不全という心臓の能力を低下する病気があります。心臓の能力が低下する原因となる疾患は、心筋梗塞などの冠動脈（＝心臓を栄養する血管）の病気、不整脈など多岐に渡ります。心臓アミロイドーシスは心臓の筋肉が変性し心不全に陥る比較的希な病気ですが、希な病気も想定した心不全の原因診断能力が、総合病院には求められます。

長野県には、心臓アミロイドーシスが比較的多く疾患として認められていることより、今回、長野県駒ヶ根市の昭和伊南総合病院の医師、コメディカルの皆さんと連携し『心臓アミロイドーシスセミナー』を開催しました。近隣の他病院の方も参加され、熱心な討論ができました。患者さんの病気の原因を見つけるのは、医師だけで無く、心エコー、レントゲンなどに従事するコメディカルスタッフの皆が協力することが大切であることを再認識できました。

頻度の多いものが優遇される本社会ではありますが、頻度が少ないものまで丁寧に対応できる総合病院であるための努力も継続して参ります。

副院長　亀谷 良介（循環器内科）

理　　念

徳洲会の理念である『生命を安心して預けられる病院』『健康と生活を守る病院』を基本理念とします。

患者さんの権利

1．平等で最善の医療を受けることができます。
2．病気の治療計画の内容などの情報が得られます。
3．説明を受けたのち診療計画について自分で選ぶことができます。
4．プライバシーが守られます。
5．病気や療養方法及び保健、予防について健康教育を受けることができます。

循環器内科

診療報告

副院長
（循環器内科）
亀谷　良介

循環器内科の体制

私が、当院へ循環器内科医として赴任し、８年が経ちました。赴任当初は、循環器内科医１名、心臓血管外科医３名の人員体制でしたが、現在は、循環器内科医８名、心臓血管外科医７名の大所帯となっております。

体制の強化に伴い、当院での治療可能な領域が大きく広がり、また、高度化しております。

当科の治療分野

循環器内科は、主には心臓、血管の疾患の治療に当たっております。その分野を大きく分けると以下が挙げられます。

① 冠動脈疾患（狭心症、心筋梗塞など）
② 不整脈疾患
③ 心不全（心不全とは心臓能力が低下した状態）
④ 大血管（大動脈解離、大動脈瘤などの、大動脈疾患）
⑤ 末梢血管（下肢動脈、腎動脈、頸動脈、鎖骨下動脈等の狭窄、閉塞疾患）

また、診断方法としては、現在は、画像診断が発達しており、ＣＴ、ＭＲＩ、血管造影（カテーテル検査）が挙げられますが、最新の診断機器を取りそろえております。

❖ 冠動脈疾患

心臓を栄養する血管（冠動脈）が、狭くなったり（狭心症）、詰まったり（心筋梗塞）する病気です。

診断方法として、当院では心臓ＣＴ検査に力を入れており、最新の心臓ＣＴ機器装置の導入し、当日検査対応可能な運用を行っております。

治療方法としては、当科が行っている心臓カテーテル治療、心臓血管外科が行っている冠動脈バイパス手術がありますが、どちらの治療を選択するかは、循環器内科、心臓血管外科全員が集合してカンファレンス（検討会）を行い、その患者さんにとってどちらの治療が適切かを検討しております。

当施設は心臓カテーテル治療手技を国内外より医師が見学に来られる施設です。安全に、丁寧に治療することがもちろん大切ですが、治療手技に関しても自信を持って対応しております。

▲320列マルチスライスＣＴ

❖ 不整脈疾患

脈の乱れ、動悸を症状とする病気です。

当院に加藤千雄部長が赴任して１年以上が経過、不整脈のカテーテル治療であるカテーテルアブレーション（経皮的カテーテル心筋焼灼術）は2014年は90症例の治療を行いました。本年は更に症例が増加しており、東海地方有数の不整脈治療施設となっております。

❖ 心不全

心臓機能が低下した状態で原因は多岐に渡ります。

当院は、植え込み型補助人工心臓手術の認定施設であります。超重症心不全患者さんの治療を行っており、心臓移植の登録も大阪大学と協力し行っております。

心不全の薬物治療は、医師の実力が如実に表れる所です。循環器内科カンファレンスを週に２回行い、適切な治療を選択するよう対応しております。

また、薬物療法だけで無く、心臓リハビリテーションの重要性が再認識されております。日々の運動が心不全を改善させる大切な領域です。当院でも心臓リハビリテーションにも力を入れており、外来でもリハビリテーション可能な体制で運用を行っております。

▲心臓リハビリテーション設備

❖ 大血管

過去には、大動脈瘤や、大動脈解離などの大動脈疾患は、手術しか治療方法はありませんでしたが、現在はカテーテルでも大動脈疾患を治療できるようになりました。カテーテル治療は、患者さんの適応の問題もありますが、手術と比べ低侵襲（傷口が小さい）、入院期間が短い等メリットもあり、より低侵襲治療を好む日本人にマッチしているとも考えられます。

手術なのか、カテーテル治療なのかも当科と心臓血管外科でカンファレンスを行い適切に選択できるような体制で行っております。

今後について

まだまだ、我々が対応している疾患については語り足りませんが、『患者さん第一の医療を提供する』ことを最優先に考えております。

地域の皆さんに、最新の高度医療を気軽に提供できる環境を維持していきたいと考えております。また、当院には岐阜県山間部などからも患者さんが来られます。高度医療を受けることが困難な地区の患者さんに対しても、ドクターカーの運用の継続、ドクターヘリの受け入れ継続等で可能な限りその地区の病院と連携させて頂きます。

当科から皆さんへ

皆さんへのお願いですが、自身の健康は自身でお守りください。我々は皆さんが病院に来られた際、適切な対応を相談させて頂き、治療選択肢を提示できますが、我々が皆さんのところに出かけて行き、病気はありませんか？と説く事はできません。そのために、かかりつけ医に相談する、健康診断を受ける、心配なことがあれば病院に来て頂く等、自身の健康は自身で守って頂きたいと考えております。

近隣の開業医の先生とも連携を密にしております。是非、かかりつけ医を持たれるようにしてください。我々も日々労力を惜しまず、最新の医療を学び、研鑽を続けております。

コラム 循環器内科

心臓リハビリテーションって聞いたことありますか？

～ 足は第二の心臓 ～

循環器内科医長
下郷卓史

▲医師や専門スタッフ管理のもと適切な運動を指導

「心臓が悪い人ってどのくらい動いていいのだろう？」こんな疑問を持ったことはありませんか？「私は心臓が悪いのであまり動いてはいけない」なんて思っていませんか？これは大きな誤りなのです。心臓が悪い人ほど適切な運動を行わなければ動脈硬化を進め、寿命が短くなってしまうことが多くの研究で証明されています。とは言ってもむやみやたらな運動は心臓に過度は負担をかけてしまいますから心臓のことを考えた適切な運動を行うことが推奨されています。具体的には弱った心臓そのものを良くするのではなく足の筋肉の働きを良くしたり、身体全体を活性化することによって、心臓に血液が返ってきやすい状態を作り、心臓への負担を少なくするために心臓リハビリを行います。それが「足は第二の心臓」と言われる所以です。

また、「心肺運動負荷試験」という検査を行うことによって適切な運動量を決定することが可能であることから当院では積極的にこの検査を行い安全なリハビリテーションを行っております。興味はある方は是非当院循環器内科外来でご相談頂ければ幸いです。

心 臓血管外科
NEW DOCTOR

医長　児島（こじま）　昭徳（あきのり）

［出身地］　岐阜県

［得意分野］
心臓血管外科全般

［所属学会］
日本外科学会
日本胸部外科学会
日本心臓血管外科学会
日本血管外科学会
日本循環器学会
関西胸部外科学会
東海外科学会

［経歴］
平成18年　名古屋市立大学 卒業
平成18年　名古屋徳洲会総合病院
平成20年　大垣徳洲会病院
平成20年　名古屋徳洲会総合病院
平成21年　松原徳洲会病院
平成22年　野崎徳洲会病院
平成22年　松原徳洲会病院
平成27年　名古屋徳洲会総合病院　心臓血管外科

［趣味・特技］
読書

［ご挨拶］
皆様はじめまして、7月からこちらでお世話なります児島昭徳と申します。私は、名古屋徳洲会総合病院で研修医として在籍していた事もあり、こちらの地域は馴染みの深い場所でもあります。しばらく関西で研鑽しておりましたが、縁あって再びこちらの病院でお世話なることとなりました。
地域の皆様、何卒宜しくお願い申し上げます。